

みんなの
くらし

未来
図鑑



空き家再生



公共空間活用



商品開発



店舗経営



イベント運営



起業・事業支援



地域福祉



コミュニティ形成

01

南九州市 穎娃町

タツノオトシゴハウス / 穎娃おこそ会 / オコソコ 加藤潤さん



はじめはこうだった

- 移住(1ターン)後、本業の観光施設にお客さんが来ない
- 絶景はあるが、観光雑誌に無視されていたまち

こんなまちになってほしい

「景色のきれいな観光過疎地を観光地に」

「いつまでも住みたいと思える魅力あるまちをつくる」

このようにまちへひろがっていった



番所鼻公園

- 1 始めに撮影スポットなる鐘を地元の人たちが手弁当で設置
- 2 低予算のイベントやマップで公園の発信と実験的な活用
- 3 新聞等に掲載、行政の目にも留まり、公園の本格整備へ



塩や、

- 1 商店街の活気を取り戻すためまずは古民家の片付けから
- 2 大学生と連携し自分達で改修、電気水道トイレ無しの門出！
- 3 交流が増え、町外からも参加。移住者を迎える空気感に

point

- ①大きなことより、まずは小さな実践から始める。
- ②メディアでの発信。知ってもらわねば始まらぬ。
- ③行政マンを仲間に。計画段階からの関与が大事。

02

鹿児島市

鹿児島市役所勤務 森満誠也さん



はじめはこうだった

- 家族と笑顔で豊かな日常を過ごしたい
- なんか楽しいことしたいから、空き家を借りてみよう

こんなまちになってほしい

「まちに開かれた使い方をし、地域課題を解決する場をつくることで、住民の笑顔を増やしたい」

このようにまちへひろがっていった



公共空間を使った活動

- 1 市役所職員の有志たちと「公民連携を推進しまくる会」を発足
- 2 市役所のロビーを活用したトークイベント等を開催
- 3 活動が目立って県庁でのパブリックビューイング等に展開



バカンス

- 1 何か始めたいという思いから名山村にある空き家を借りる
- 2 SNS で DIY での改修や物件の共同オーナーを募集
- 3 「バカンス」と名付け、物々交換カフェなどを定期的で開催

point

- ①自分ができるところから始める。
- ②コミュニティは時に引き継ぐ、閉じることも必要。
- ③辛くなったらやらんでいいよ。仕事じゃないもの。

03

日置市 美山

美山商店 /moë store/ 地域おこし協力隊サポートデスク 吉村佑太さん



はじまりはこうだった

- 地域おこし協力隊になることでやりたいことに近づけるかも
- まちの人の信頼を得て、任せてもらえるようになろう

こんなまちになってほしい

「地域の風景を時代に合った形で守り続け、地域から世の中に新しい刺激を創る
-Locals inspires people-」

このようにまちへひろがっていった



美山笑点 /
moë store



地域おこし協力隊
サポートデスク

- 1 着任後、引継いだ地域のマルシェの課題に対し域内外の連携を強化
 - 2 マルシェだけでなく美山の日常も楽しめる工夫で人気イベントに！
 - 3 拠点となる「美山笑点」の運営を経て退任後、土産店 moë store を開店
- 1 次世代の教育の重要性を感じ、若手リーダーの育成講座を開催
 - 2 様々な活動が認知され、県内各地の協力隊から相談されるように
 - 3 総務省の協力隊専門の相談員に。県内でも支援団体を設立

point

- ①地域の活動で大事なものは、あくまで本業・家族が優先。
- ②自分に来ることは限られる。周りの人たちと連携する。
- ③誰かに引き継いでいく、育てていくということ。

04

日置市 湯之元

湯之元温泉株式会社 / 鹿児島県エアギター協会 / Ten-Lab 永山由高さん



はじまりはこうだった

- 再開発を機にまちの未来を話し合うも自分達にできないばかり
- やりたいと思ったことを誰に相談していいかわからない

こんなまちになってほしい

「外の人に興味を持ってもらえるような文化を自分達でつくる」

「一人の夢をみんなで応援できる環境があるまち」

このようにまちへひろがっていった



湯之元未来 80人会議

- 1 まずは毎月集まって緩やかに語り合う場をつくる
- 2 会議の場に出てきたやりたいことをみんなの力で実践！
- 3 若手～シニア世代が楽しみながら、祭りや町のシンボルづくりに取組む



エアギター 全国大会誘致

- 1 地元の若手を地域活動に巻き込むため趣味であるエアギターを自身も始める
- 2 エアギターの魅力にのめり込み、まちの人にも知って欲しいと思うように！
- 3 日本エアギター選手権の予選・全国大会を誘致し、まちが盛り上がる

point

- ①地域のみんながやりたいことを語り合える場をつくる。
- ②自分ができることから、小さく始める。
- ③何から始めれば良いかわからない時は後押しする応援者になる。

05

薩摩川内市 甑島

東シナ海の小さな島ブランド社 山下賢太さん



はじまりはこうだった

- 農業を始め、最初の稼ぎは無人販売の月商 800 円のみ
- 釣り客以外は、観光で訪れる人は殆どいない島だった

こんなまちになってほしい

- 「世界で一番暮らしたい集落をつくる」
- 「日本のおいしい風景をつくる」

このようにまちへひろがっていった



山下商店

- 1 米づくりと島の暮らしをブログで発信し、「島米」を販売
- 2 島ならではの商品を WEB やイベントで販売し注目を集める
- 3 空き家を活用して、豆腐製造・販売の「山下商店」をオープン



FISHERMANS Fest

- 1 先輩の漁師廃業の悔しさから漁師が主役のイベントを開催
- 2 漁師と客が会話できる浜焼きが好評！他県の漁港にも展開
- 3 日常的に全国の漁師から直接消費者に配送する仕組みを構築

point

- ①島の風景や生業を継承するための活動を事業に。
- ②コンセプトとアイデア=WHY と WHAT が重要。
- ③本当にやりたい人が地道に関係性を築いていく。

06

出水市

すみとカフェ / Ten-Lab 飯福あすみさん



はじまりはこうだった

- 社会人になって最初の仕事が商店街活性化事業だった
- 魅力が詰まった商店街、この波に私ものらなきゃ！

こんなまちになってほしい

「出水を楽しむスポットとして
"商店街"を選んでもらえる」
「チャレンジしやすい土壌と
空気感があるまち」

このようにまちへひろがっていった



出水本町通り
未来会議 / 文化堂

- 1 「出水本町通り未来会議」で商店街の魅力・課題と理想の商店街像を共有
- 2 月1日の未来会議の参加者である商店街の空き店舗オーナーから活用意向が！
- 3 有志で投資・DIYを行い、みんなが集えるレンタルスペース「文化堂」に改修



すみとカフェ

- 1 「自分ごと」で商店街に関わるため文化堂で朝 cafe を隔週でオープン
- 2 朝 cafe を1年間続け、次は自ら店主になることを決意。商店街の拠点となる場を目指して「すみとカフェ」を開店。
- 3 チャレンジショップの機能も兼ね備えみんなの挑戦をサポートする場に！

point

- ① 自分の役割を見つめながら、模索し続けること。
- ② 「とりあえずやってみよう！」という姿勢が大事。
- ③ 自分だけでなくみんなにとっての可能性を探求する。

07

始良市

Kids Café & Bar LINK 種子田璃紗さん



はじめはこうだった

- 多くママが“子育ては自分ひとりでするもの”と思う違和感
- もっと気軽に頼ってほしい頼られる自分になるには？

こんなまちになってほしい

- 「コミュニティが生まれたり、頼れる場所がある」
- 「誰かの“やりたい”と一緒に形にしたり、つながれるまち」

このようにまちへひろがっていった



Kids Café &
Bar LINK



あいら未来会議

- 1 ママさんたちが頼れる場所をつくるため古民家を改修
 - 2 オープンにあたってコーヒーや料理は得意な人に任せる
 - 3 様々なママさん起業やコミュニティが生まれる場に！
- 1 月1回誰かの困りごとや皆で出来ることを話す場を設ける
 - 2 未来会議を機にマルシェや子ども食堂などの催しを開催
 - 3 県の事業を採択し、女性農業者の繋ぎ役・サポートにも着手

point

- ①目の前に見える困りごとは、変わったり、増えたり。
- ②無理せず、頼ることも、諦めることも大切。
- ③「いまのあなたは楽しいですか？」と自分に問いかける。

08

霧島市 横川町

大隅横川駅保存活用実行委員会 / Ten-Lab 白水梨恵さん



はじめはこうだった

- 今まで車で通り過ぎていた横川、実は魅力がいっぱい
- 横川のまちづくりを私も一緒にやりたい！

こんなまちになってほしい

- 「この町に、もう一度商店街のにぎわいを取り戻したい」
- 「横川町の未来をつくる、人が行き交う交流の場をつくる」

このようにまちへひろがっていった



大隅横川駅保存活用実行委員会

- 1 縁も所縁もない他所者でも子連れでも温かく受け入れてくれる保存会。その活動に参加するように
- 2 自らの空き家改修をきっかけに、駅舎で空き家再生のフォーラムを開催
- 3 川遊びを楽しめる自然体験プログラム開発などにも着手！



横川喫茶 kito

- 1 不動産業者のいないまちなので、空き家のオーナーに直談判。地元の方々と一緒に色々な物件を回る
- 2 築89年の古民家を借りられることに！地域内外の人を巻き込みながら改修
- 3 このまちを訪れる人の流れをつくる「横川喫茶 kito」開店に向けて準備中

point

- ①入り口は飲みニケーションでも十分。
- ②今の時代の風、外の空気をうまく地域内に入れていく。
- ③地域に関わることは楽しんだもの勝ち。

09

肝付町

肝付町地域包括支援センター 能勢佳子さん



はじまりはこうだった

- 過疎が進むまち、支える世代の減少が特に顕著に…
- そんな中でなんとかしたい！と思っている住民や医療介護者がつながっていなかった

こんなまちになってほしい

「-Health For All-
住民の積極参加と地域資源をつなぎ、すべての人々で、
どんな状況でも地域で生きていける力を創っていく」

このようにまちへひろがっていった



サロン・暮らしの
保健室 / 結いの家

- 1 自分の地域、他の地域の強み・弱みを知り、語り、支え合えることを発見する場づくり
- 2 ここで暮らしたいという方の支援を専門職と地域の人で考える場や、自分たちでできることを始めるためのサロンが誕生
- 3 サロン等を自分達で運営するための情報提供や運営支援できる拠点として、空き家や公共施設を活用し「結いの家」を開設



支え愛隊 /
配食サービス

- 1 サロン等の繋がりから地域のためにボランティアを行う高齢者中心の支え愛隊が誕生
- 2 拠点ができたことで、有償の配食サービスを開始した高齢者チーム
- 3 高齢者サロン、子供や若者などの自主活動がつながり新たなイベントが生まれ、多問題を抱えた方の支援の輪が広がる

point

- ①「弱みは強み」弱いところを補い合い人が繋がる。
- ②個人の意思決定を支えることが地域をつなぐ。
- ③集まりたいと思えるつながりと場からチャレンジが生まれる。

10

奄美大島 瀬戸内町
HUB a nice d! 山本美帆 さん



はじまりはこうだった

- 夫の転勤で仕事を辞めて人生の孤独や挫折を感じる
- 妊娠により再び社会との繋がりを断たれ、不安…

こんなまちになってほしい

「ママたちが社会と繋がり役割を持ち元気になる」
「多世代の人が繋がる場やチャレンジできる場所がある」

このようにまちへひろがっていった



ママの働き方
応援隊

- 1 不安から抜け出すため、転勤先・子育て中での働き方を模索
- 2 ベビーマッサージの資格を取得し、個人事業主として働く
- 3 NPO で地域のママたちと赤ちゃんが主役の働き方を推進

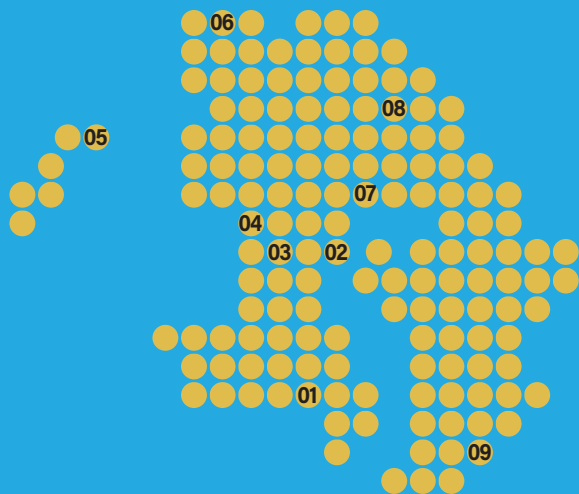


HUB a nice d!

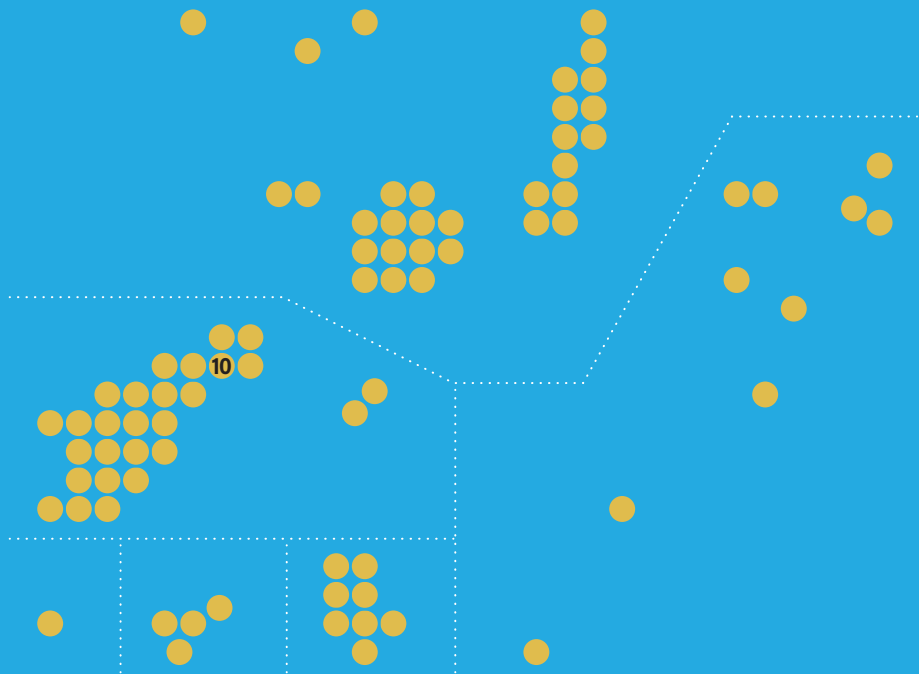
- 1 次の一歩として、集落の頼れる先輩達と空き家再生に着手
- 2 起業やイベントなど地元の人々が様々な活用できる場所に！
- 3 県内の空き家再生関連のコンテスト優秀賞を獲得

point

- ①自分がやりたいことを人に話して共感者を増やす。
- ②呑み、語り、少人数でも信頼できる仲間をつくる。
- ③自分や地域が大事にしたいのは何なのかを問いかける。



- 01 穎娃
- 02 鹿児島市
- 03 美山
- 04 湯之元
- 05 甌島
- 06 出水
- 07 始良
- 08 横川
- 09 肝付
- 10 奄美



07

始良市

Kids Café & Bar LINK 種子田璃紗さん



はじまりはこうだった

- 多くママが子育ては自分ひとりですもの”と思う違和感
- もっと気軽に頼ってほしい頼られる自分になるには？

こんなまちになってほしい

- 「コミュニティが生まれたり、頼れる場所がある」
- 「誰かの“やりたい”と一緒に形にしたり、つながれるまち」

このようにまちへひろがっていった



Kids Café & Bar LINK



あいら未来会議

- 1 ママさんたちが頼れる場所をつくるため古民家を改修
- 2 オープンにあたってコーヒーや料理は得意な人に任せる
- 3 様々なママさん起業やコミュニティが生まれる場に！

- 1 月1回誰かの困りごとや皆で出来ることを話す場を設ける
- 2 未来会議を機にマルシェや子ども食堂などの催しを開催
- 3 県の事業を採択し、女性農業者の繋ぎ役・サポートにも着手

point

- ①目の前に見える困りごとは、変わったり、増えたり。
- ②無理せず、頼ることも、諦めることも大切。
- ③「いまのあなたは楽しいですか？」と自分に問いかける。

08

霧島市 横川町

大隅横川駅保存活用実行委員会 /Ten-Lab 白水梨恵さん



はじまりはこうだった

- 今まで車で通り過ぎていた横川、実は魅力がいっぱい
- 横川のまちづくりを私も一緒にやりたい！

こんなまちになってほしい

- 「この町に、もう一度商店街のにぎわいを取り戻したい」
- 「横川町の未来をつくる、人が行き交う交流の場をつくる」

このようにまちへひろがっていった



大隅横川駅保存活用実行委員会



横川喫茶 kito

- 1 縁も所縁もない他所者でも子連れでも温かく受け入れてくれる保存会。その活動に参加するように
- 2 自らの空き家改修をきっかけに、駅舎で空き家再生のフォーラムを開催
- 3 川遊びを楽しめる自然体験プログラム開発などにも着手！

- 1 不動産業者のいないまちなので、空き家のオーナーに直談判。地元の方々と一緒に色々な物件を回る
- 2 築89年の古民家を借りられることに！地域内外の人を巻き込みながら改修
- 3 このまちを訪れる人の流れをつくる「横川喫茶 kito」開店に向けて準備中

point

- ①入り口は飲みニケーションでも十分。
- ②今の時代の風、外の空気をうまく地域内に入れていく。
- ③地域に関わることは楽しんだもの勝ち。

09

肝付町

肝付町地域包括支援センター 能勢佳子さん



はじまりはこうだった

- 過疎が進むまち、支える世代の減少が特に顕著に…
- そんな中でなんとかしたい！と思っている住民や医療介護者がつながっていなかった

こんなまちになってほしい

- 「-Health For All- 住民の積極参加と地域資源をつなぎ、すべての人々で、どんな状況でも地域で生きていける力を創っていく」

このようにまちへひろがっていった



サロン暮らしの保健室 / 結いの家



支え愛隊 / 配食サービス

- 1 自分の地域、他の地域の強み・弱みを知り、語り、支え合えることを発見する場づくり
- 2 ここで暮らしたいという方の支援を専門職と地域の人で考える場や、自分たちでできることを始めるためのサロンが誕生
- 3 サロン等を自分達で運営するための情報提供や運営支援できる拠点として、空き家や公共施設を活用し「結いの家」を開設

- 1 サロン等の繋がりから地域のためにボランティアを行う高齢者中心の支え愛隊が誕生
- 2 拠点ができたことで、有償の配食サービスを開始した高齢者チーム
- 3 高齢者サロン、子供や若者などの自主活動がきっかけとなり新たなイベントが生まれ、多問題を抱えた方の支援の輪が広がる

point

- ①「弱みは強み」弱いところを補い合い人が繋がる。
- ②個人の意思決定を支えることが地域をつなぐ。
- ③集まりたいと思えるつながりと場からチャレンジが生まれる。

10

奄美大島 瀬戸内町

HUB a nice d! 山本美帆さん



はじまりはこうだった

- 夫の転勤で仕事を辞めて人生の孤独や挫折を感じる
- 妊娠により再び社会との繋がりを断たれ、不安…

こんなまちになってほしい

- 「ママたちが社会と繋がり役割を持ち元気になる」
- 「多世代の人が繋がる場やチャレンジできる場所がある」

このようにまちへひろがっていった



ママの働き方応援隊



HUB a nice d!

- 1 不安から抜け出すため、転勤先・子育て中での働き方を模索
- 2 ベビーマッサージの資格を取得し、個人事業主として働く
- 3 NPO で地域のママたちと赤ちゃんが主役の働き方を推進

- 1 次の一步として、集落の頼れる先輩達と空き家再生に着手
- 2 起業やイベントなど地元の人が様々な活用できる場所に！
- 3 県内の空き家再生関連のコンテスト優秀賞を獲得

point

- ①自分がやりたいことを人に話して共感者を増やす。
- ②呑み、語り、少人数でも信頼できる仲間をつくる。
- ③自分や地域が大事にしたいのは何なのかを問いかける。



- 01 穎娃
- 02 鹿児島市
- 03 美山
- 04 湯之元
- 05 甕島
- 06 出水
- 07 始良
- 08 横川
- 09 肝付
- 10 奄美

みんなの未来 暮らし図鑑



01

南九州市 穎娃町

タツノオトシゴハウス / 穎娃おこそ会 / オコソコ 加藤潤さん



はじめはこうだった

- 移住(1ターン)後、本業の観光施設にお客さんが来ない
- 絶景はあるが、観光雑誌に無視されていたまち

こんなまちになってほしい

- 「景色のきれいな観光過疎地を観光地に」
- 「いつまでも住みたいと思える魅力あるまちをつくる」

このようにまちへひろがっていった



- 1 最初に撮影スポットなる鐘を地元の人たちが手弁当で設置
 - 2 低予算のイベントやマップで公園の発信と実験的な活用
 - 3 新聞等に掲載、行政の目にも留まり、公園の本格整備へ
- 1 商店街の活気を取り戻すためまずは古民家の片付けから
 - 2 大学生と連携し自分達で改修、電気水道トイレ無しの門出!
 - 3 交流が増え、町外からも参加。移住者を迎える空気感に

point

- ①大きなことより、まずは小さな実践から始める。
- ②メディアでの発信。知ってもらわねば始まらない。
- ③行政マンを仲間に。計画段階からの関与が大事。

02

鹿児島市

鹿児島市役所勤務 森満誠也さん



はじめはこうだった

- 家族と笑顔で豊かな日常を過ごしたい
- なんか楽しいことしたいから、空き家を借りてみよう

こんなまちになってほしい

- 「まちに開かれた使い方をし、地域課題を解決する場をつくることで、住民の笑顔を増やしたい」

このようにまちへひろがっていった



- 1 市役所職員の有志たちと「公民連携を推進しまくる会」を発足
 - 2 市役所のロビーを活用したトークイベント等を開催
 - 3 活動が注目され県庁でのパブリックビューイング等に展開
- 1 何か始めたいという思いから名山町にある空き家を借りる
 - 2 SNSでDIYでの改修や物件の共同オーナーを募集
 - 3 「バカンス」と名付け、物々交換カフェなどを定期的で開催

point

- ①自分ができるところから始める。
- ②コミュニティは時に引き継ぐ、閉じることも必要。
- ③辛くなったらやらんでいいよ。仕事じゃないもの。

03

日置市 美山

美山商店 / moë store / 地域おこし協力隊サポートデスク 吉村佑太さん



はじめはこうだった

- 地域おこし協力隊になることでやりたいことに近づけるかも
- まちの人の信頼を得て、任せられるようになろう

こんなまちになってほしい

- 「地域の風景を時代に合った形で守り続け、地域から世の中に新しい刺激を創る -Locals inspires people-」

このようにまちへひろがっていった



- 1 着任後、引継いだ地域のマルシェの課題に対し域内外の連携を強化
 - 2 マルシェだけでなく美山の日常も楽しめる工夫で人気イベントに!
 - 3 拠点となる「美山笑点」の運営を経て退任後、土産店 moë store を開店
- 1 次世代の教育の重要性を感じ、若手リーダーの育成講座を開催
 - 2 様々な活動が認知され、県内各地の協力隊から相談されるように
 - 3 総務省の協力隊専門の相談員に。県内でも支援団体を設立

point

- ①地域の活動で大事なものは、あくまで本業・家族が優先。
- ②自分に出来ることは限られる。周りの人たちと連携する。
- ③誰かに引き継いでいく、育てていくということ。

04

日置市 湯之元

湯之元温泉株式会社 / 鹿児島県エアギター協会 / Ten-Lab 永山由高さん



はじめはこうだった

- 再開発を機にまちの未来を話し合うも自分達にできないことばかり
- やりたいと思ったことを誰に相談していいかわからない

こんなまちになってほしい

- 「外の人に興味を持ってもらえるような文化を自分達でつくる」
- 「一人の夢をみんなで応援できる環境があるまち」

このようにまちへひろがっていった



- 1 まずは毎月集まって緩やかに語り合う場をつくる
 - 2 会議の場に出てきたやりたいことをみんなの力で実践!
 - 3 若手~シニア世代が楽しみながら、祭りや町のシンボルづくりに取組む
- 1 地元の若手を地域活動に巻き込むため趣味であるエアギターを自身も始める
 - 2 エアギターの魅力にのめり込み、まちの人にも知って欲しいと思うように!
 - 3 日本エアギター選手権の予選・全国大会を誘致し、まちが盛り上がる

point

- ①地域のみんがやりたいことを語り合える場をつくる。
- ②自分ができるところから、小さく始める。
- ③何から始めれば良いかわからない時は後押しする応援者になる。

05

薩摩川内市 甑島

東シナ海の小さな島ブランド社 山下賢太さん



はじめはこうだった

- 農業を始め、最初の稼ぎは無販の月商 800 円のみ
- 釣り客以外は、観光で訪れる人は殆どいない島だった

こんなまちになってほしい

- 「世界で一番暮らしたい集落をつくる」
- 「日本のおいしい風景をつくる」

このようにまちへひろがっていった



- 1 米づくりと島の暮らしをブログで発信し、「島米」を販売
 - 2 島ならではの商品を WEB やイベントで販売し注目を集める
 - 3 空き家を活用して、豆腐製造・販売の「山下商店」をオープン
- 1 先輩の漁師廃業の悔しさから漁師が主役のイベントを開催
 - 2 漁師と客が会話できる浜焼きが好評! 他県の漁港にも展開
 - 3 日常的に全国の漁師から直接消費者に配送する仕組みを構築

point

- ①島の風景や生業を継承するための活動を事業に。
- ②コンセプトとアイデア=WHYとWHATが重要。
- ③本当にやりたい人が地道に関係性を築いていく。

06

出水市

すみとカフェ / Ten-Lab 飯福あすみさん



はじめはこうだった

- 社会人になって最初の仕事で商店街活性化事業だった
- 魅力が詰まった商店街、この波に私ものらなきゃ!

こんなまちになってほしい

- 「出水を楽しむスポットとして「商店街」を選んでもらえる」
- 「チャレンジしやすい土壌と空気感があるまち」

このようにまちへひろがっていった



- 1 「出水本町通り未来会議」で商店街の魅力・課題と理想の商店街像を共有
 - 2 月1の未来会議の参加者である商店街の空き店舗オーナーから活用意向が!
 - 3 有志で投資・DIYを行い、みんなが集えるレンタルスペース「文化堂」に改修
- 1 「自分ごと」で商店街に関わるため文化堂で朝 cafe を隔週でオープン
 - 2 朝 cafe を1年間続け、次は自ら店主になることを決意。商店街の拠点となる場を目指して「すみとカフェ」を開店。
 - 3 チャレンジショップの機能も兼ね備えみんなの挑戦をサポートする場に!

point

- ①自分の役割を見つめながら、模索し続けること。
- ②「とりあえずやってみよう!」という姿勢が大事。
- ③自分だけでなくみんなにとっての可能性を探求する。